

会員の皆様、こんにちは。

本日、紙幣に描かれる人物が変わるという報道が流れました。しかしながら、時代は「現金」にとって逆風のようなようです。キャッシュレス化の波はカードを越えて、今や信用調査のいらぬQRコード決済が主流になりつつあるようです。そのような中でも、まだまだ「貨幣の信用」は、「国の信用」です。財務省では、毎年、日本貨幣の信頼性を担保する事業を実施しています。明治に始まったこの事業は昨年で147回を数えました。なかなかユニークなこの事業をご紹介します。

石田まさひろ政策研究会

製造貨幣大試験

■紙幣のデザイン刷新

政府は紙幣のデザインを改める方針であるとニュースが報じている。以前のデザイン刷新が20年前であるためだが、改元の年に重なったことで国民の気分もなんとなく賑わいを増すようである（ただ、発行自体は2024年になるそうだが）。新しい1万円札の肖像画は、「日本の資本主義の父」といわれる渋沢栄一、5千円札には日本で初めて海外留学をした女性として知られ、津田塾大学の創始者である津田梅子、千円札には「近代日本医学の父」といわれる北里柴三郎とのこと。

また、今般の紙幣改定にあたっては、偽造防止の新技术が施されるという。この20年の間の技術の進歩は、偽造する側にも、それを防止する側にも平等に訪れているので、政府としても対策を打つということなのだろう。

一方で、日本の紙幣・貨幣の製造技術が大変優れており、かつ日本銀行に対する信用が絶大なため、わが国ではフィンテックの普及やキャッシュレス化が遅れている、という指摘もある。中国では露天商でさえ自国の紙幣を受け取らないという話も聞く。

中国紙幣はそれだけ偽札が多いということなのだろう。

■製造貨幣大試験

今でこそ世界最高水準の貨幣を作ることのできる日本だが、明治期、開国したばかりの日本は様子が違った。欧米列強から見れば、極東の小国である。しかも、貨幣制度は現在のような中央銀行の信用に依拠するものではなく、貨幣に含まれる金や銀の含有量が貨幣価値と直接リンクしていた時代だ。欧米列強にすれば、「日本の貨幣は信用



できるのか？」と疑心暗鬼だったに違いない。

確かに、歴史を振り返ると、その国の統治者の財政が苦しくなると、貨幣に含まれ

る金や銀の含有量を減らして手元の貨幣を増やす、という政策が繰り返し取られてきたのも事実である。そして、インフレとなり庶民が苦しむ、という構図だ。

という次第で、明治政府は国際的信用を得るため貨幣の量目が適正に作られていることを内外に示す必要に迫られた。そこで、実施することにしたのが「製造貨幣大試験」である（「大実験」ではなく、「大試験」）。

明治5年に第1回として行われた製造貨幣大試験だが、昨年11月をもって147回を数えるに至った。

財務省ではホームページに、前もって大試験の実施を予告し、終了後は速やかにその結果を報告している。

り、かつ1枚をそれぞれ単独で量るのである。

その様子をYouTubeで見ることが出来る。財務省大臣政務官や来賓の見守る中、造幣局職員が、「電子てんびん」を使って貨幣の重さが法定の範囲内であるかどうかを確認するのである。大人が大勢かかって理科の実験をしているようで少々ユーモラスでさえある。

このような大試験は毎年行われていて、これにより日本の貨幣は世界的信用を得ているのだ。

ペンネーム：ai

■ユニークな大試験の方法

大試験の方法は、1,000枚ごとに量る（集合秤量）。その1,000枚の選び方は、各貨幣によって数万枚に1枚を抜き取る、というものである。例えば、「500円ニッケル黄銅貨幣」は、大試験実施の14日前までに製造された貨幣のうち、1日の製造貨幣あたり30,000枚に1枚を抜き取る。

そうして、1,000枚をひとまとめにして量

別表 第147次製造貨幣大試験の内訳及び成績表

番号	種類	試験対象枚数 (千枚)	選取枚数 (枚)	秤量試験枚数 (枚)	秤量枚数 (枚)	秤量試験量目 (グラム)	法定量目 及び公差 (グラム)	秤量試験量目と 法定量目との差 (グラム)	試験結果
31	明治150年記念1,000円銀貨幣	50	20	10	1	31.12	法定量目 31.1 公差 0.42	0.02	適正
32					1	31.12		0.02	適正
33					1	31.11		0.01	適正
34					1	31.12		0.02	適正
35					1	31.11		0.01	適正
36					1	31.11		0.01	適正
37					1	31.12		0.02	適正
38					1	31.12		0.02	適正
39					1	31.12		0.02	適正
40					1	31.12		0.02	適正
41	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 記念100円クラッド貨幣(第一次発行分)	7,896	174	100	100	480	法定量目 480 公差 5.1	0	適正
42	500円ニッケル黄銅貨幣	326,671	11,087	11,000	1,000	7,000	法定量目 7,000 公差 13	0	適正
43					1,000	7,000		0	適正
44					1,000	7,000		0	適正
45					1,000	7,000		0	適正
46					1,000	7,000		0	適正
47					1,000	7,000		0	適正
48					1,000	7,000		0	適正
49					1,000	7,000		0	適正

このメールは送信専用メールアドレスから配信されています。ご意見は info@masahiro-ishida.jp までお寄せください。

【配信停止・設定変更】本メールサービスの解除を希望する方は、石田まさひろ政策研究会までご連絡ください。

【配信元】石田まさひろ政策研究会 〒100-0014 東京都千代田区永田町2-1-1

Copyright© Masahiro ISHIDA all Rights Reserved ---掲載記事の無断転載を禁じます---